

動詞

操るための文法：使役形

第1部：強制と指示

日本語マスターへの道

動作の「強制」

山田さんが勉強する



先生が山田さんに勉強させる



定義：誰かに無理やり何かをさせること

関係：上下関係が必須（親→子、上司→部下、先生→学生）

ポイント：「する」のではなく、「させる」

動詞の変形：グループ 2 & 3

グループ 2



寝ます → 寝させます
見ます → 見させます

動詞の変形：グループ 1



い	き (ki)	→	か (ka)	あ
段	み (mi)	→	ま (ma)	段
	り (ri)	→	ら (ra)	

[i] → [a] + せます

飲みます → 飲ませます
書きます → 書かせます
待ちます → 待たせます

注意!

「い」は「あ」ではなく
「わ」になります。

買います → 買わせます

助詞のルール：「を」は1回だけ



一つの文に「を」は
一つしか使えません。

もし動詞に
目的語（～を）
があるなら…



人は「に」へ
移動します。

パターンA：自動詞（目的語なし）



監督は選手を走らせる。

動詞に目的語がない → 人は「を」

パターンB：他動詞（目的語あり）



母は子供に野菜を食べさせる。

野菜「を」がある → 人は「に」へ逃げる

比較：助詞の使い分け



行きます（自動詞）

子供 **を** 買い物に行かせる

[子供]は

を

[買い物に行か]せる



読みます（他動詞）

子供 **に** 本 **を** 読ませる

[子供]は

に

を

[読ま]せる

「を」の重複を避けるために助詞が変わります。

場面1：しつけ・教育



親 → 子供（嫌がっていてもさせる）

母は子供に部屋を掃除させました。

私は子供に塾へ行かせます。

場面2：職場での指示



上司 → 部下（業務命令）

部長は部下を大阪へ出張させました。（自動詞・を）

課長は田中さんにコピーをとらせた。（他動詞・に）

場面3：感情の誘発



泣かせる



心配させる



笑わせる

相手の感情を引き出すときも使役形を使います。

テストで100点をとって、親を喜ばせた。

彼は冗談を言って、みんなを笑わせた。

感情の動詞は自動詞が多いので「を」を使います。

注意：目上の人には使わない

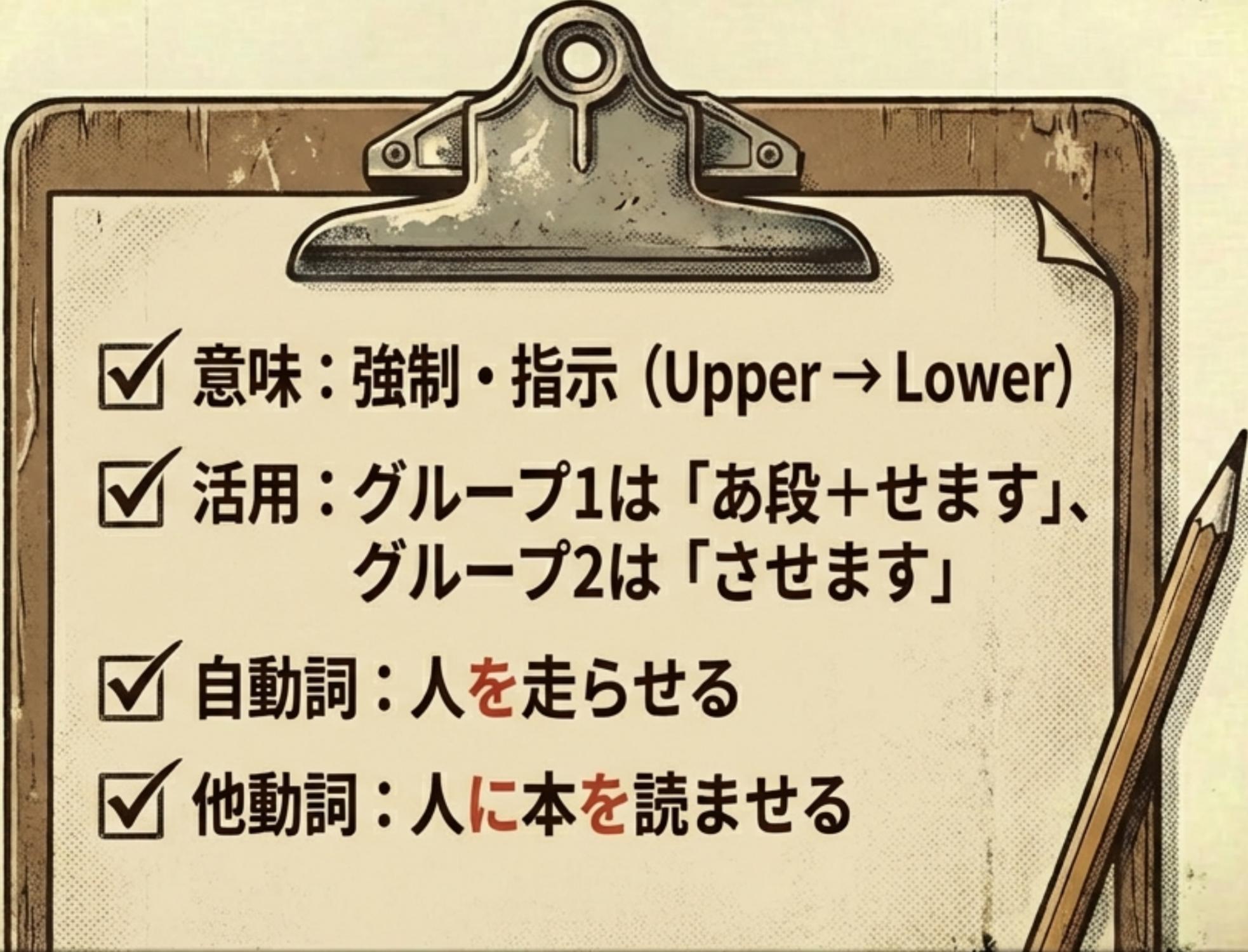


使役形は「強制」のニュアンスがあるため、目上の人に使うと失礼です。

悪い例 (Bad Example): × 私は先生に書かせました。

修正 (Correction): ○ 先生に書いていただきました (敬語)。

まとめ：監督のルール

- 
- ☑ 意味：強制・指示 (Upper → Lower)
 - ☑ 活用：グループ1は「あ段+せます」、グループ2は「させます」
 - ☑ 自動詞：人~~を~~走らせる
 - ☑ 他動詞：人~~に~~本~~を~~読ませる



言葉は人を動かす道具です。

使役形を使って、あなたの指示を明確に伝えましょう。